

目次

はじめに『源偶篇』・『源氏大和詞』と『源氏目案』……………五

第一部 調査研究篇……………一

一 語句から見た『源偶篇』と『目案』の類似性……………一三

1 所在不明の語句をも『源偶篇』はそのまま踏襲する……………一七

2 本文と異なる『目案』の語句と『源偶篇』の関係……………一八

3 万治版『目案』に拠った可能性のある『源偶篇』……………二〇

二 註解から見た『源偶篇』と『目案』の類似性……………二一

三 卷名傍記から見た『目案』と『源偶篇』の類似性……………二五

1 卷名傍記の誤りが『目案』と『源偶篇』と共通するもの……………二六

A 『目案』における卷名傍記の記載漏れ……………二六

B 『目案』における卷名傍記のズレ……………二七

C 『目案』における拾遺……………二八

D 万治版『目案』の卷名傍記と一致する『源偶篇』……………二九

2 『源偶篇』独自の卷名傍記の誤り……………三〇

四 『源偶篇』独自の語句……………三一

1 卷名傍記……………三三

2 語句 三四 A 誤写 三四 B 重複 三六 C 拾遺 三八

3 註解 三九 A 誤写 三九 B 註解の特徴 四〇

五 承応版『目案』の本文と注釈……………四三

1 本文について……………四三

2 注釈について……………四五

六 『源氏大和詞』の位置……………四六

1 語句……………四七

A 『源偶篇』の誤写等の修正 四八 B 新たに立てた語句 四九

2 註解……………五二

A 註解の拡充 五二 B 独自の註解 五四

3 和歌の増補……………五七

4 挿絵について……………六五

七 新資料『源氏大和詞絵巻』(仮称)について……………七二

八 むすび	七四
〈文献〉	七六
第二部 影印篇	七九
『源氏大和詞』	八〇
『源氏大和詞絵巻』（仮称）	一三一
あとがき	一四九

はじめに 『源偶篇』・『源氏大和詞』と『源氏目案』

『源氏大和詞』は、筆者不明ながら契沖『源偶篇』（貞享二年奥書、写本）を版本化したものであることはよく知られている。事実、収載語数は『源偶篇』が九八七語で、『源氏大和詞』は九九一語と僅かに四語を上回るにすぎない。また見出し語句及びその註解も『源氏大和詞』は『源偶篇』のそれをほぼそのまま踏襲していることが明らかである。しかしその反面『源氏大和詞』は註解を増補し、さらに證歌（三八首）を加えるなど、必ずしも『源偶篇』と同じと言い切れない。さらに何よりも『源氏大和詞』の大きな、そして独自の特徴は、『源偶篇』の「源氏故事詞分」を除いた上で、当時しきりに作られていた絵入本にならって、挿画（三〇図）を入れ、より一般向けに仕立てている点にある。池田利夫氏は次のように言う（『契沖全集』第九卷解題 昭和四九年 岩波書店）。

憶測を以てすれば、この本は、何人かが源偶篇の草稿もしくは写本を入手し、それに幾許かの筆を加えて書名を改め、契沖のあずかり知らぬままに印行されたのではなかったろうか。

恐らく、『源氏大和詞』の出版の事情は池田氏の推測の通りであって、厳密に言えば「この版本のどこにも契沖の名がなく、自筆本に見る奥書もない」（池田氏、前掲書）以上、本書は著者未詳とすべきであろう。にもかかわらず本書が契沖の著作と目されるのは、前述したように『源氏大和詞』が『源偶篇』に依拠していること明白だからである。ところで池田氏は『源氏大和詞』の特徴として次の点を指摘する。箇条書きにして整理する。

- 1 本文は、（略）全く源偶篇と同じであり、それに若干の改竄を加えた内容である。
- 2 増補の中で比較的多いのは、掲出された源氏語句の注のあとに、往々それを含む短歌を例示する。

はじめに『源偶篇』・『源氏大和詞』と『源氏目案』



〇わつぽや
 いふふふふ
 〇わんぱう
 いふふふ
 〇ふふふ
 いふふふふ
 いふふふふふ
 いふふふふふ
 〇かけりふ

物々々々々々の東いつて月より月より家さ山
 停勢^{イカガ}が女 停勢^{イカガ}停愛ノ国ハ白狐^{ビロコ}
 とくあけおト云
 一ヶふふふふふふふふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 掛^{ツル}政実^{シヤク}めれふし

又5丁ウ

二 いさふふ
ろ ○わ
一 おほくめ
二 ちほくめ
○ めき
一 うじきり
○ わるゑ
一 うきり
は ○
○ 棚つみ

おとゆふてくらん
た位の短ふんとひやくそくせハ
まぬのらうりとより
あがり
あかり
五十一
勿論
五十一

一、いふこと
二、いふこと
三、いふこと
四、いふこと
五、いふこと
六、いふこと
七、いふこと
八、いふこと
九、いふこと
十、いふこと

在天竺作此異鳥在迦陀者連取也長恨方

源同

七

6丁ウ

○ろくわ
一ろくわき
一んや
一盤勝御
○うつせ
一ろくわ
○たうや
一むさ
一ろくわ
○ワキムシ

そこのは、あまのひとを
さへてゐる月
なつ御子
旅をきくとて
勝者
先づのこ

7丁ウ

一 えつらうりさ
一 うーてん
一 やうふうふ
○ まつむ
一 うーわ
○ さくざい
一 えなつくえのおむす
○ お合
一 えうごのくま
一 しほりす

とくをかしめしきこもやまつけ
はるきまつてはしくちりなき
はるきのゆめ
放浪しやうとうらい いひへ
我こそぬかたよりつね
といわれの女の人
作御をもとのせられしおひとハ
よきチーミなるヘー

鮎アサギとつむし 標馬マカウラバ低

柳ヤナギみづれし

8丁才

[illegible][illegible]

8丁ウ

9 丁才